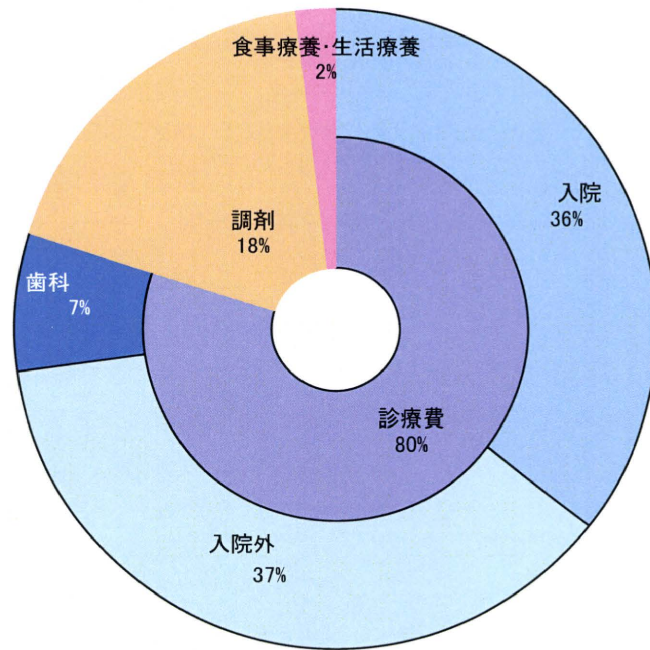
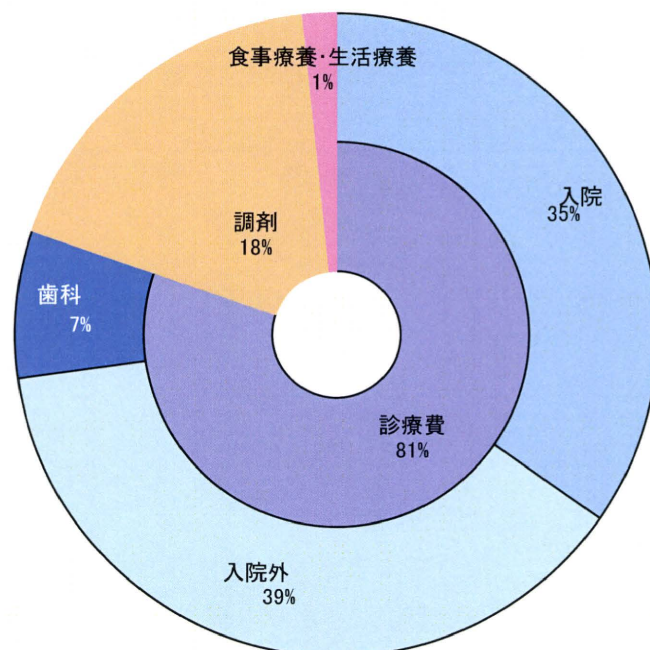


市町村国保合計 療養給付費構成割合円グラフ 前期高齢者



国保組合合計 療養給付費構成割合円グラフ 前期高齢者



介護サービスにおける利用者数と報酬の地域差分析

－ 医療・介護の一体的な体制作りの基礎資料として －

【目的】

2000(平成12年)年4月から実施された介護保険制度は、わが国の高齢者介護の歴史においても時代を画す改革であり、介護保険制度の導入によって高齢者介護のあり方は大きく変容しつつある。引き続き人口の急速な高齢化が進むことを踏まえ、高齢者介護のあり方を中長期的な視野でとらえる必要がある。医療と介護は連続的につながっており、費用や利用日数(入院、入所、サービス利用)においても、関連が深いと考えられる。

本研究は、医療の在院日数や医療費と連続的に関係する介護保険の利用者数と報酬に着目し、京都府において市町村別に、介護サービス別の量と費用(介護報酬)の実態を把握し、医療と連携し需要と供給とのバランスのとれた介護サービス制度・政策の基礎資料を示すことを目的に分析を行う。

【方法】

(1) データ

本研究は2008年4月の京都府介護レセプトデータを用いた。主に介護サービス利用者数と報酬をもとで分析を行う。

(2) 地域

京都府における二次医療圏については、6医療圏で分けられているが、当研究では、各市町村ごとのサービス等を定量化した。

医療圏	構成市町村	構成市町村
丹後医療圏	4(2市2町)	宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
中丹医療圏	3(3市)	福知山市、舞鶴市、綾部市
南丹医療圏	3(2市1町)	亀岡市、南丹市、京丹波町
京都・乙訓医療圏	4(3市1町)	京都市、向日市、長岡京市、大山崎町
山城北医療圏	7(4市3町)	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、 宇治田原町
山城南医療圏	5(1市3町1村)	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村

【結果】

結果は以下になる。図は本文の後に添付する。

(1) 図1. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービス利用者 (単位:千人)

(2) 図2. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービスを利用したのべ人数 (単

位：千人)

- (3) 図3. 介護サービス種類別、サービスを受けた回数 (単位：回数)
- (4) 図4. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービスを一つでも使った人の数 (単位：千人)
- (5) 図5. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービスを一つでも使った人の数 (単位：%)
- (6) 図6. 市町村別、65歳以上人口の介護度による介護サービスを受けた回数 (単位：回数)
- (7) 図7. 市町村別、65歳以上人口の要介護・支援度による介護サービスを受けた人の数 (単位：一人)
- (8) 図8. 市町村別、65歳以上人口の介護サービスを一つでも使った人の数 (単位：一人)
- (9) 図9. 市町村別、65歳以上人口と介護サービスの報酬 (単位は1人、万円)
- (10) 図10. 介護サービスにおける65歳以上人口数と報酬の関連性
- (11) 図11. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービス種類別報酬(金額) (単位：1円/千人)
- (12) 図12. 介護サービス別、65歳以上人口千人当たり報酬(金額) (単位：1円/千人)
- (13) 図13. 市町村別、65歳以上人口一人当たり介護サービス報酬(金額) (単位：1円/1人)
- (14) 図14. 市町村別、65歳以上一人当たり介護サービス報酬 (PER) (単位：%)
- (15) 図15. 市町村別、介護サービス種類別報酬(金額) (単位：1円)
- (16) 図16. 市町村別、介護サービス種類別報酬 (PER) (単位：%)
- (17) 図17. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービス別報酬(金額) (単位：1円/千人)
- (18) 図18. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービス別報酬 (PER) (単位：%)
- (19) 図19. 市町村別、サービスを使った人の一人当たりの介護サービス別報酬(金額) (単位：1円)
- (20) 図20. 市町村別、サービスを使った人の一人当たりの介護サービス別報酬 (PER) (単位：%)
- (21) 図21. 市町村別、65歳以上人口の要介護・支援別報酬の分布 (単位：1円)
- (22) 図22. 市町村別、65歳以上人口の要介護・支援別報酬 (単位：1円)
- (23) 平成20年4月京都府介護サービス別分析

【考察】

A. 結果 (1)～(22):介護給付関係と予防給付関係

a. 利用者数

京都府65歳以上人口530,350人のなか、介護給付関係サービスを一個でも使った人が65,335人で予防給付関係の14,157人を上回る。介護給付関係サービスのなかで43番の居宅介護支援が一番多く、市町村によって使われているサービスと使われてないサービスのパータ

ンはおよそ類似している。

b. のべ人数

利用者数であらわれたパターンはだいたい似ている。ただ、利用者数と比較し、介護給付関係の居宅サービスが施設サービスや地域密着サービスより多く使われていることがわかった。

c. 報酬

介護サービス種類別には、介護給付関係の居宅サービスと施設サービスが全体の9割を占めている。介護給付関係65歳以上人口当たり報酬は介護給付関係サービスが95%を、1人当たり報酬は98%であった。特に、居宅サービスは12種類があることに比べ、施設サービスは介護福祉施設サービス(51)、介護保健施設サービス(52)、介護療養施設サービス(53)が各15%ぐらい占め、すべての市町村でサービスのニーズが高かった。

d. 要介護・要支援度

市町村別、要介護・要支援度による患者数はだいたい同じパターンが見られる。要介護・要支援度別介護サービスを受けた人の数とを受けた回数に関しては要支援が少なく、要介護度は要介護度1から要介護度5まではほぼ同じである。

e. 介護サービス要介護・要支援度

居宅サービスにおいては、サービス(1 1 + 1 2)、(1 5)、(2 1)は地域差があまりなく利用されているが、それ以外の利用では、市町村毎の差が大きい。施設サービスにおいては、地域別に利用されたサービスの差があまりなく、すべてのサービスが均衡的に利用されている。地域密着サービスにおいては、市町村で、利用できるサービスの数が異なり、全体的に利用されたサービス件数が少なく、地域差も大きい。

表1. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービス利用者 (単位:千人)

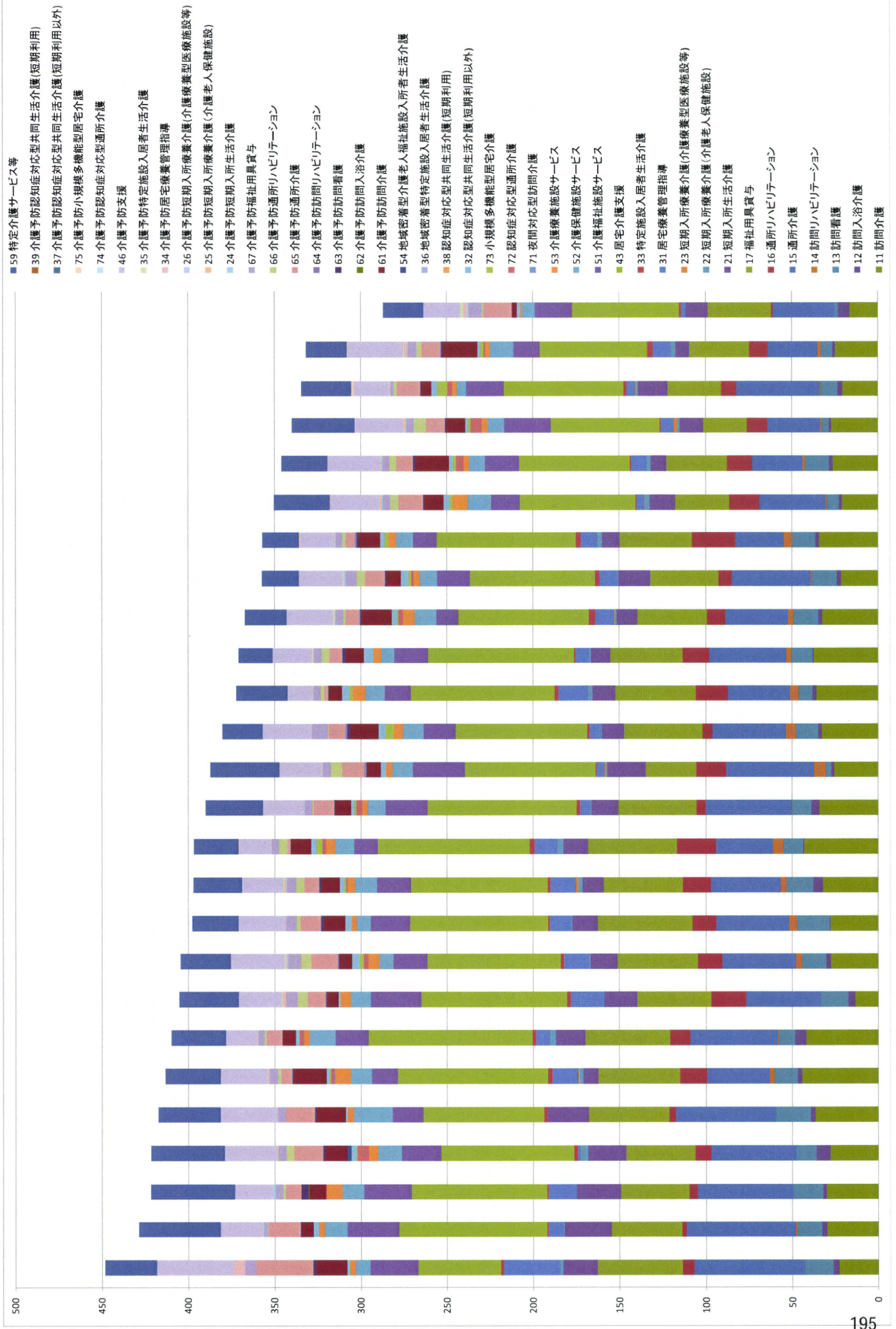


表2. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービスを利用したのべ人数 (単位:千人)

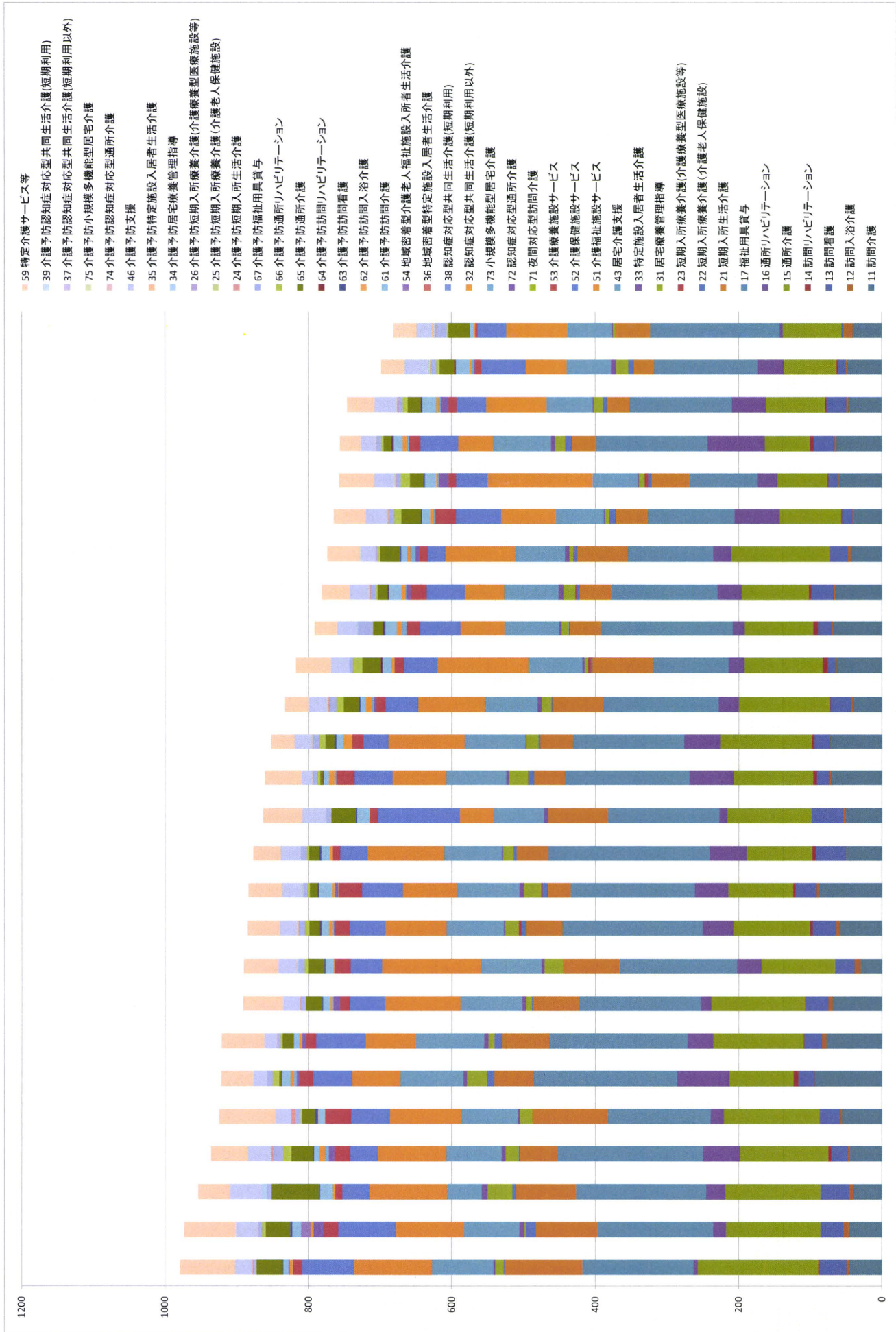


表3. 介護サービス種類別、サービスを受けた回数（単位：回数）

式：(=65歳以上人口当たり利用者数/65歳以上人口当たり利用者数)

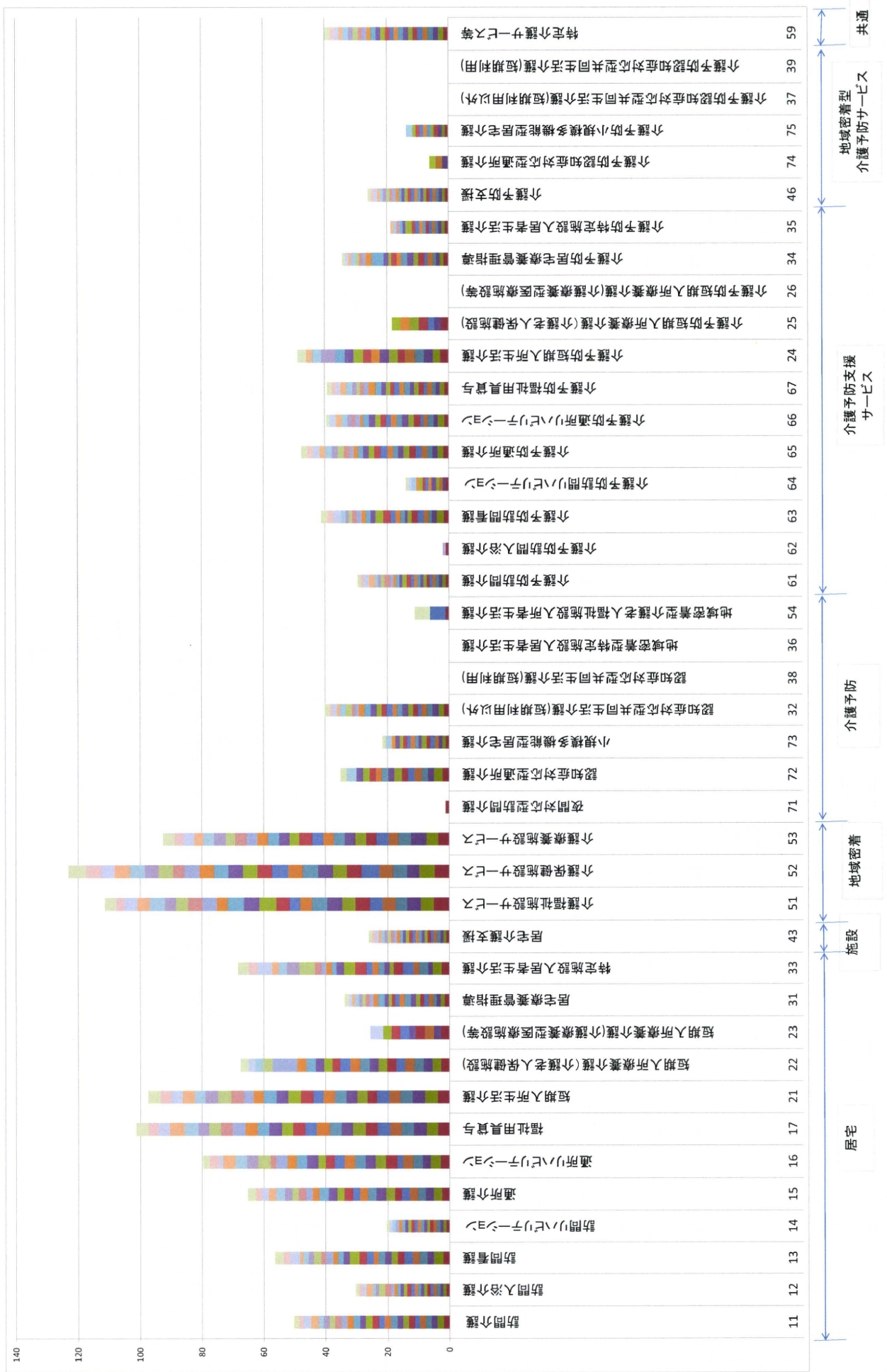


表4. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービスを一つでも使った人の数 (単位:千人)

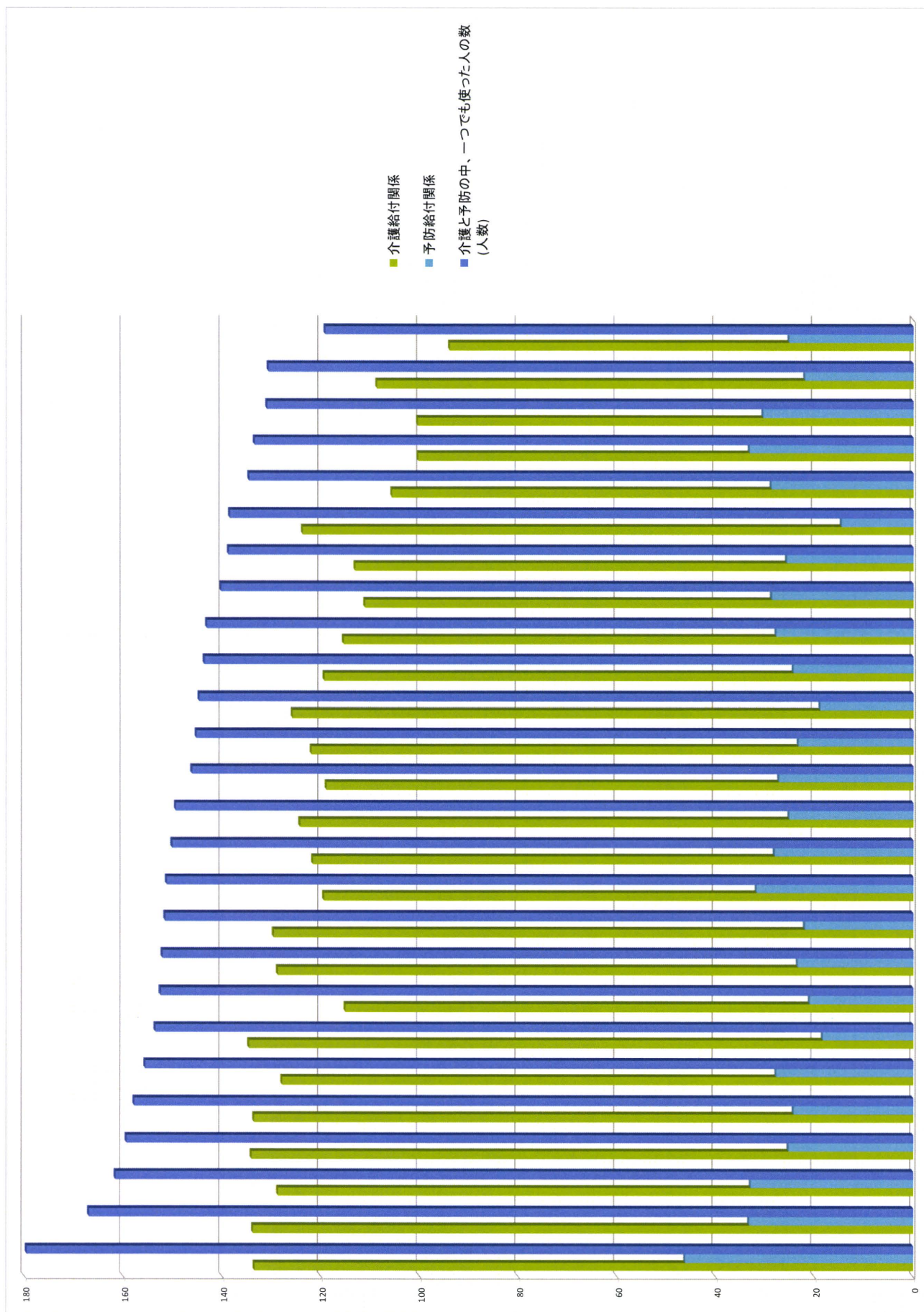


表5. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービスを使っても使った人の数 (単位:%)

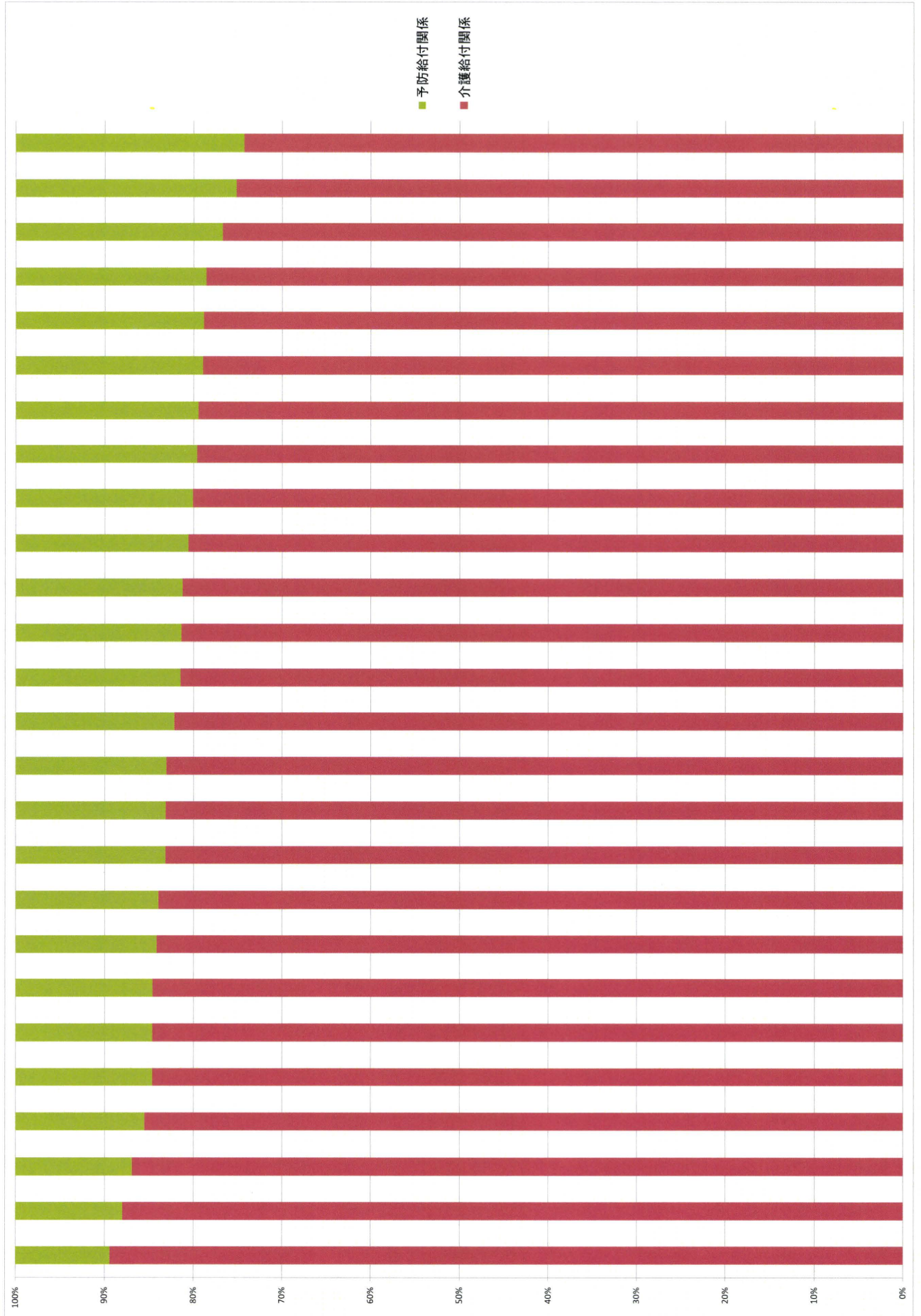


表6. 市町村別、65歳以上人口の介護度による介護サービスを受けた回数（単位：回数）

式：（=市町村ごとに介護サービスを受けた人の数/市町村ごとに介護サービスの一つでも使った人の数）

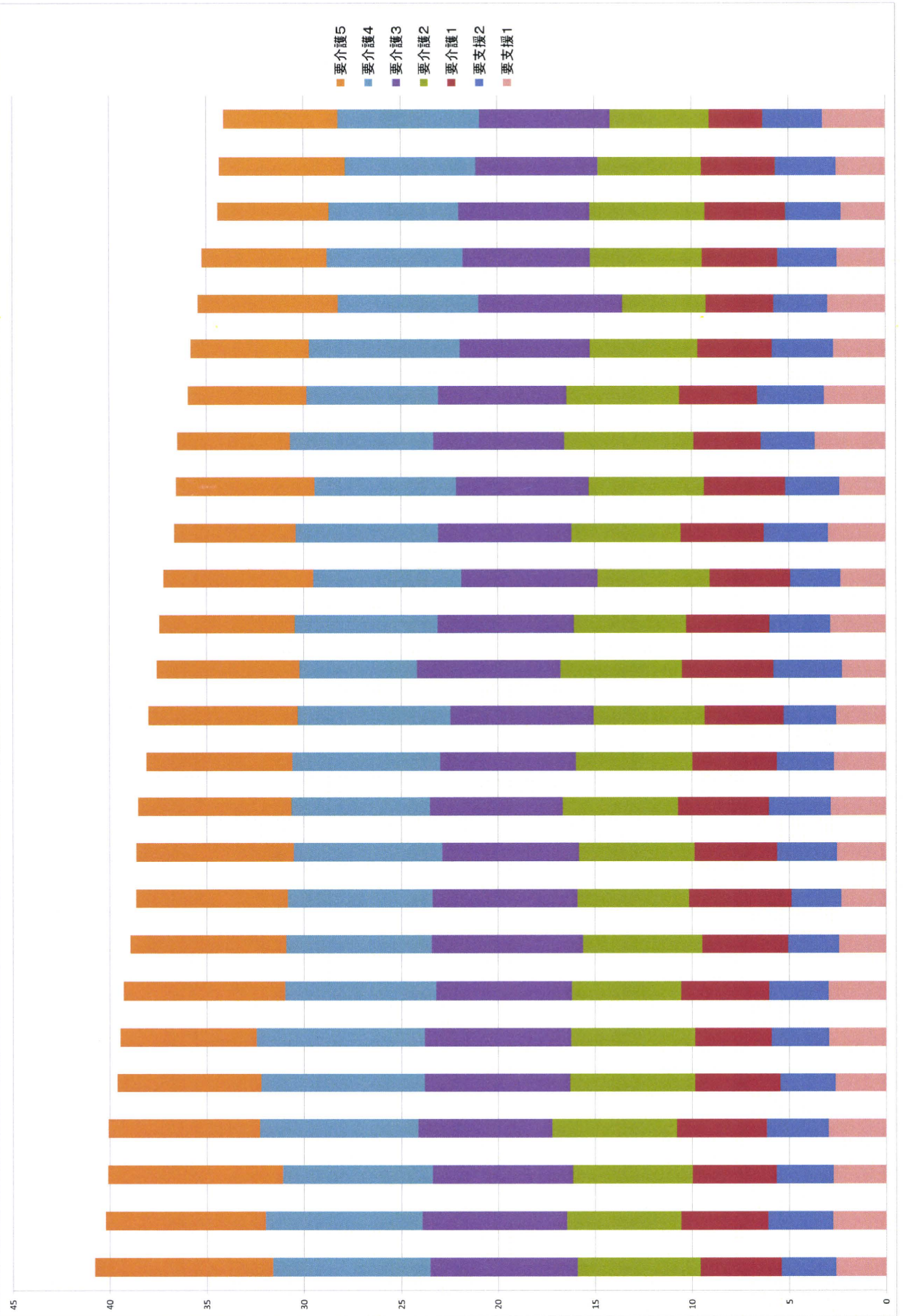


表7. 市町村別、65歳以上人口の要介護・支援度による介護サービスを受けた人の数 (単位:一人)

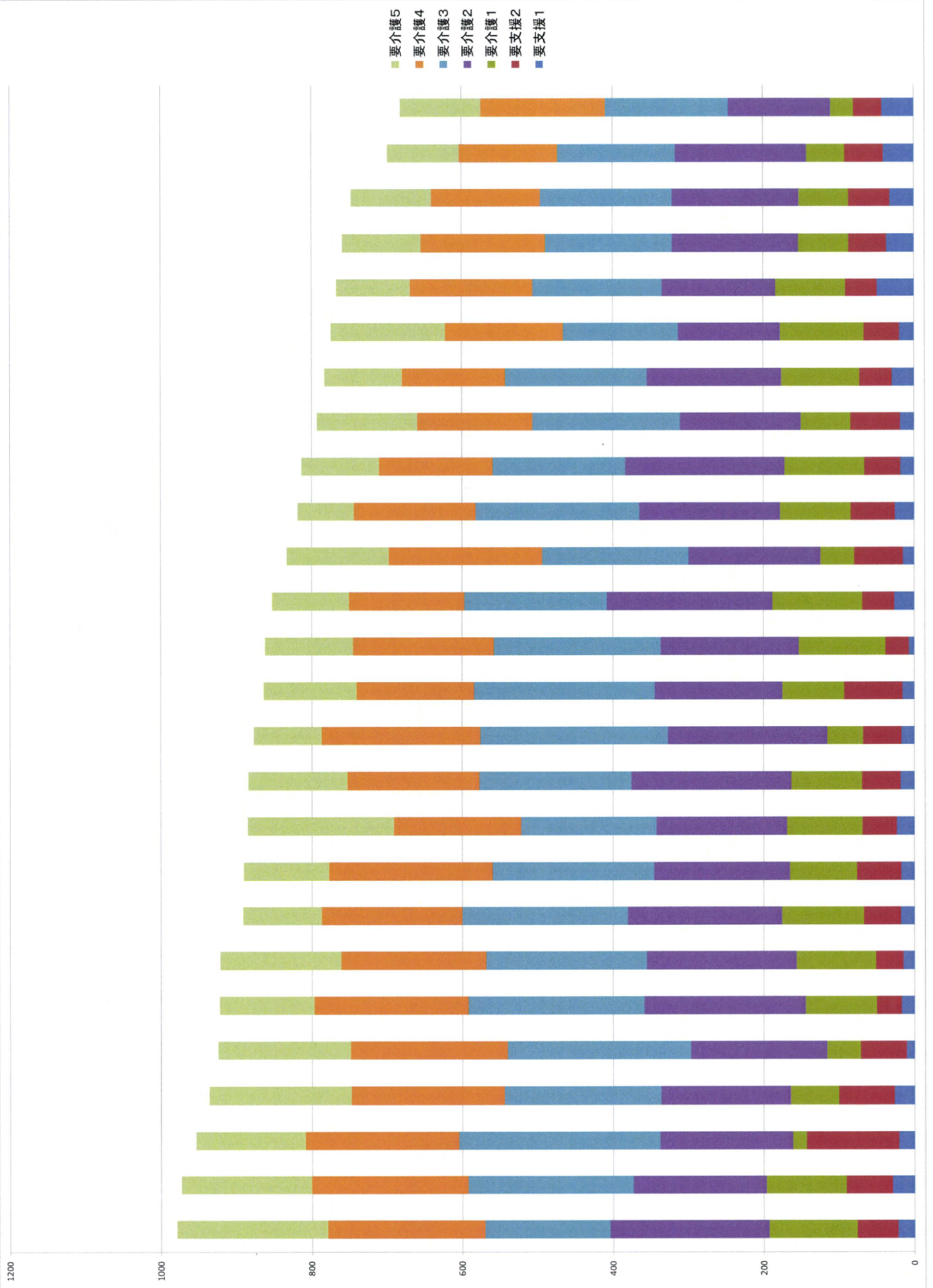


表8. 市町村別、65歳以上人口の介護サービスを一つでも使った人の数（単位：一人）

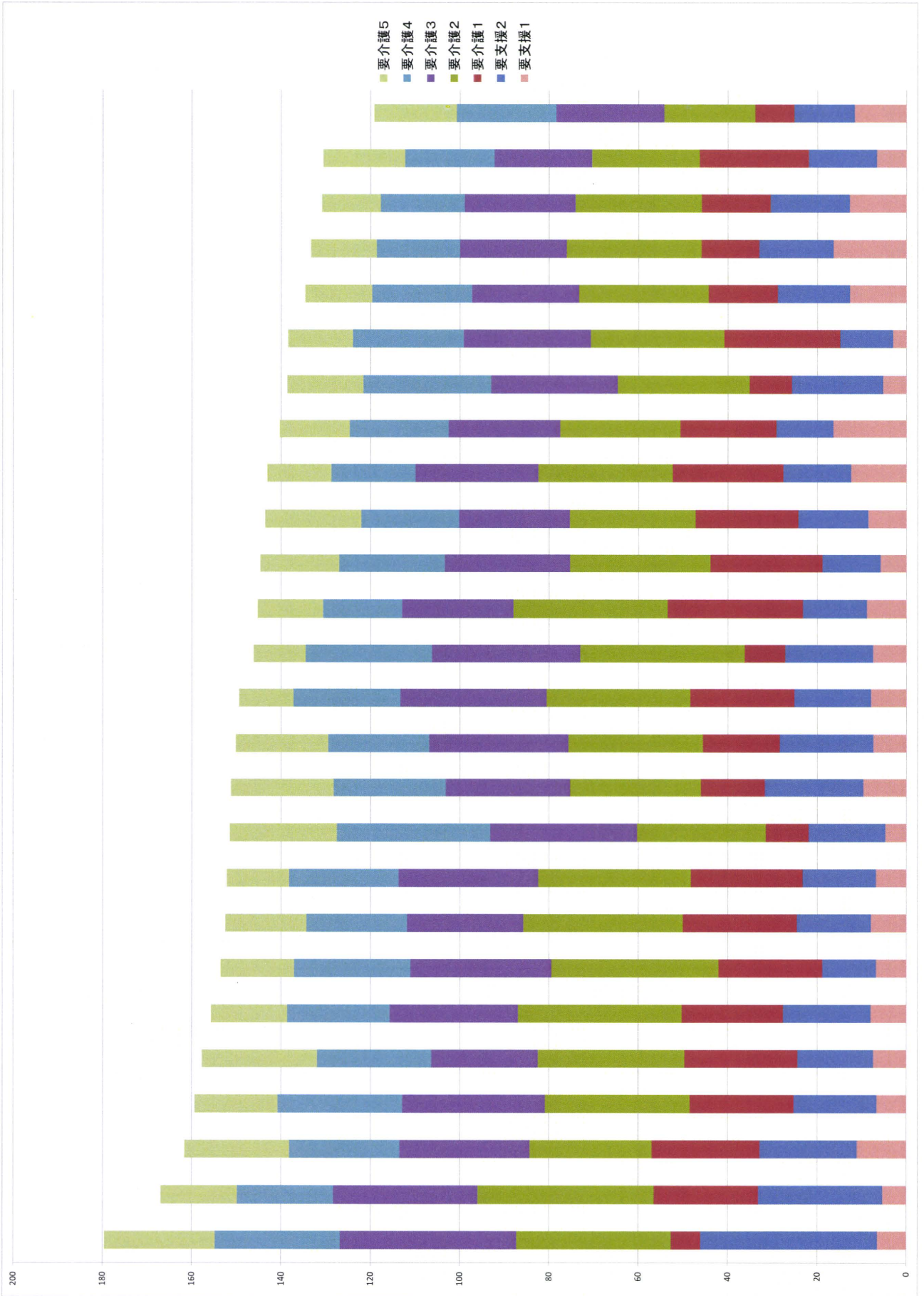


表9. 市町村別、65歳以上人口と介護サービスの報酬 (単位は1人、万円)

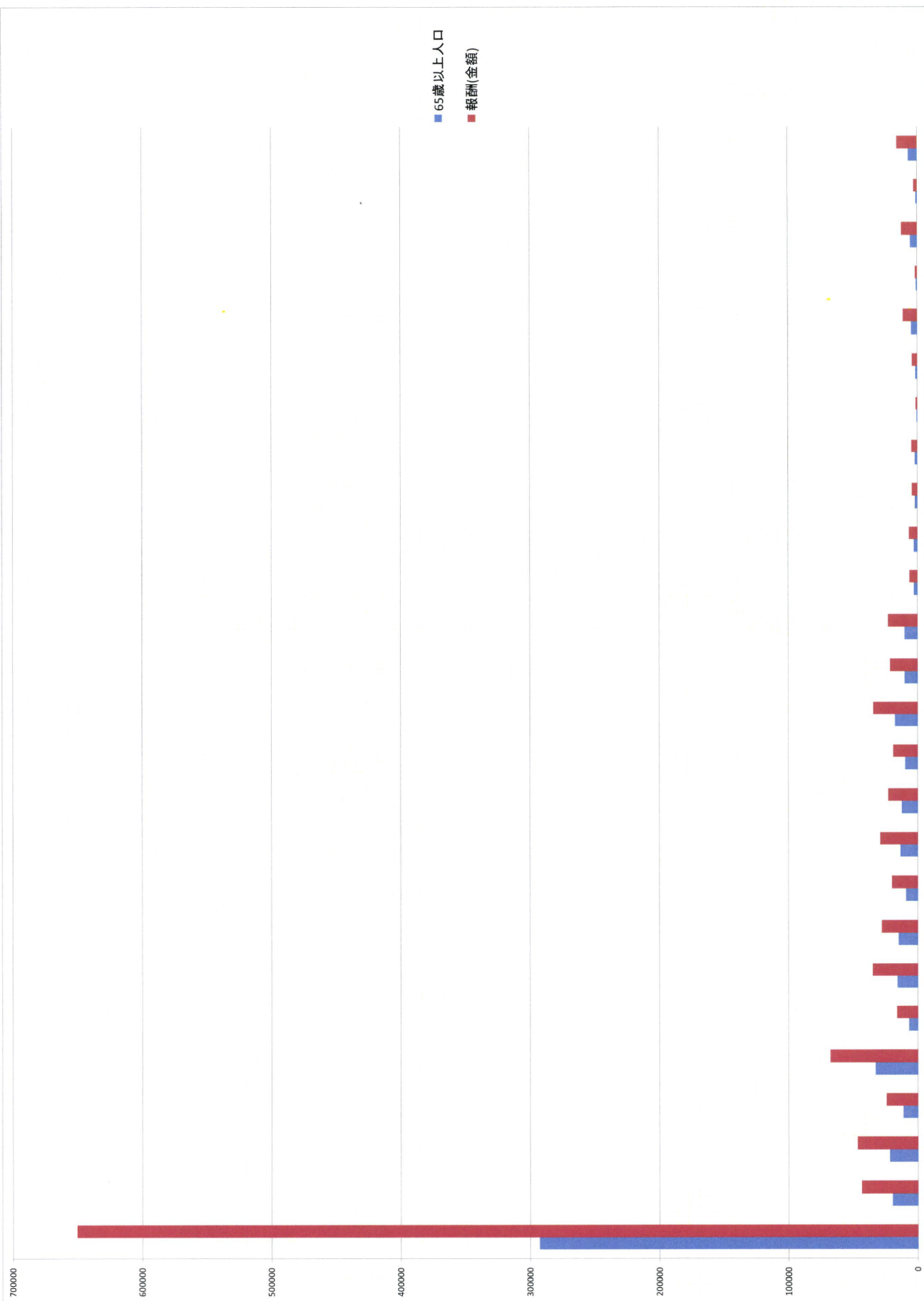


表10. 介護サービスにおける65歳以上人口数と報酬の関連性

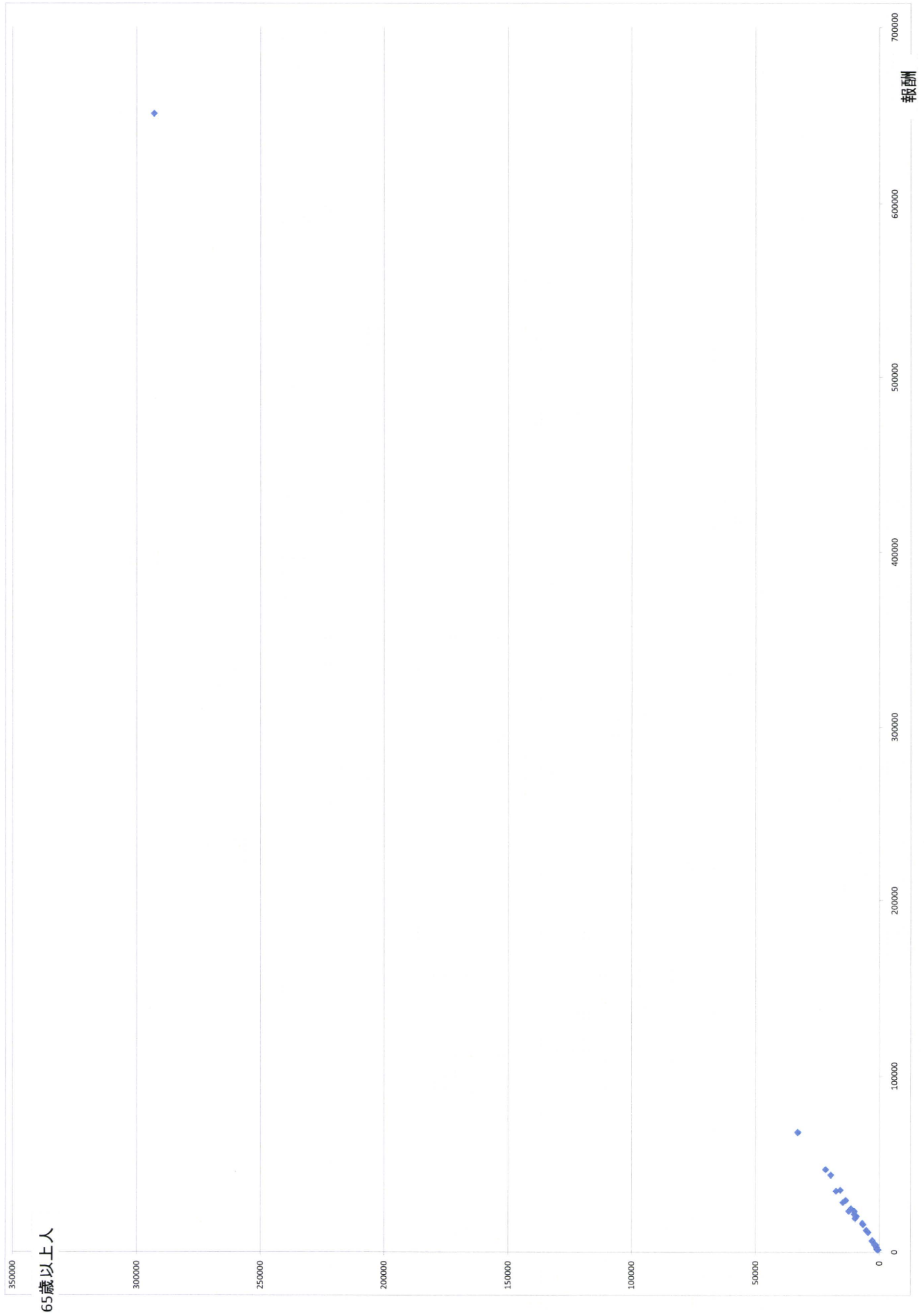


表11. 市町村別、65歳以上人口千人当たり介護サービス種類別報酬(金額) (単位: 1円/千人)

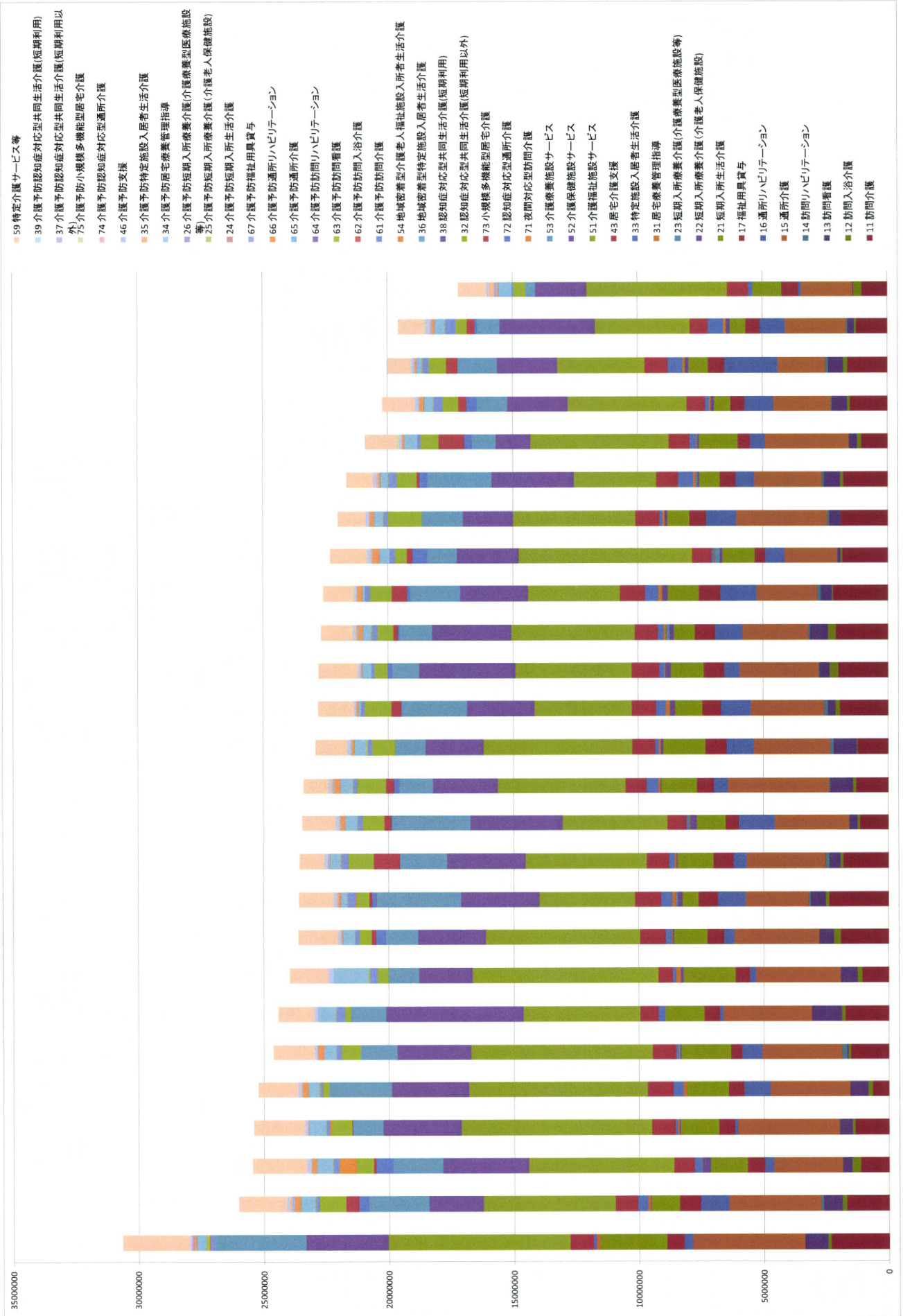


表12. 介護サービス別、65歳以上人口千人当たり報酬(金額) (単位:1円/千人)

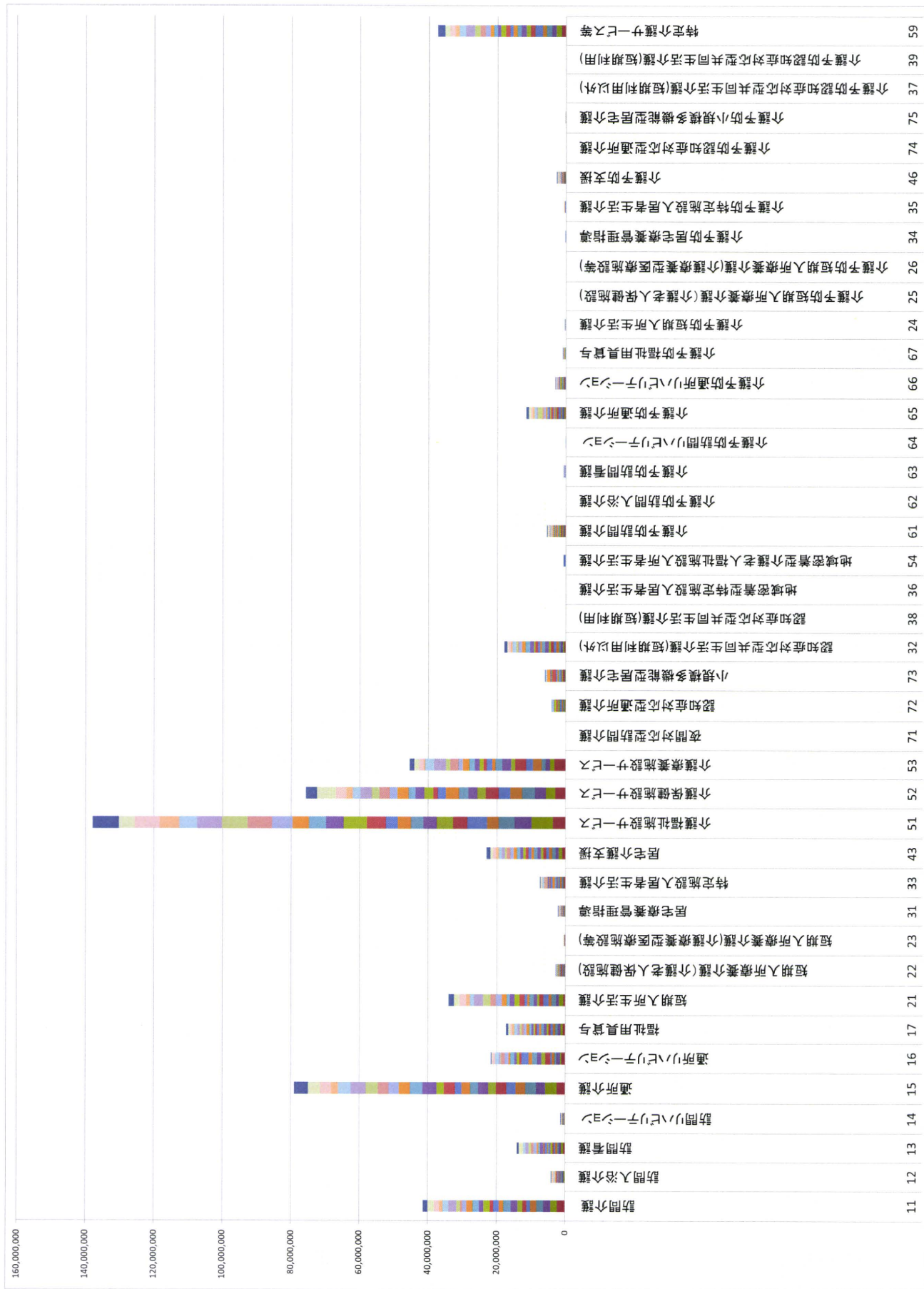


表13. 市町村別、65歳以上人口一人当たり介護サービス報酬(金額) (単位:1円/1人)

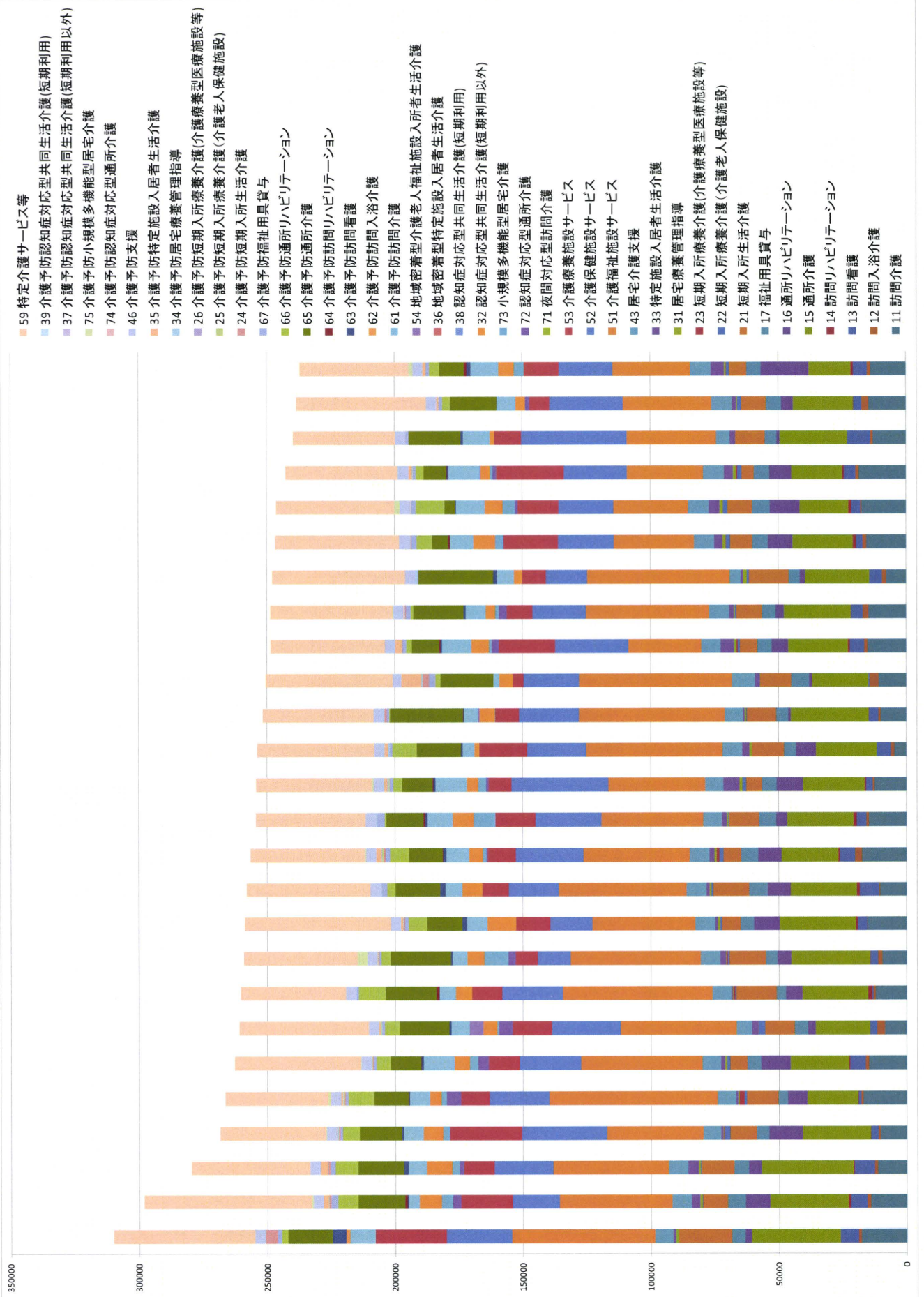


表14. 市町村別、65歳以上一人当たり介護サービス報酬(PER) (単位: %)

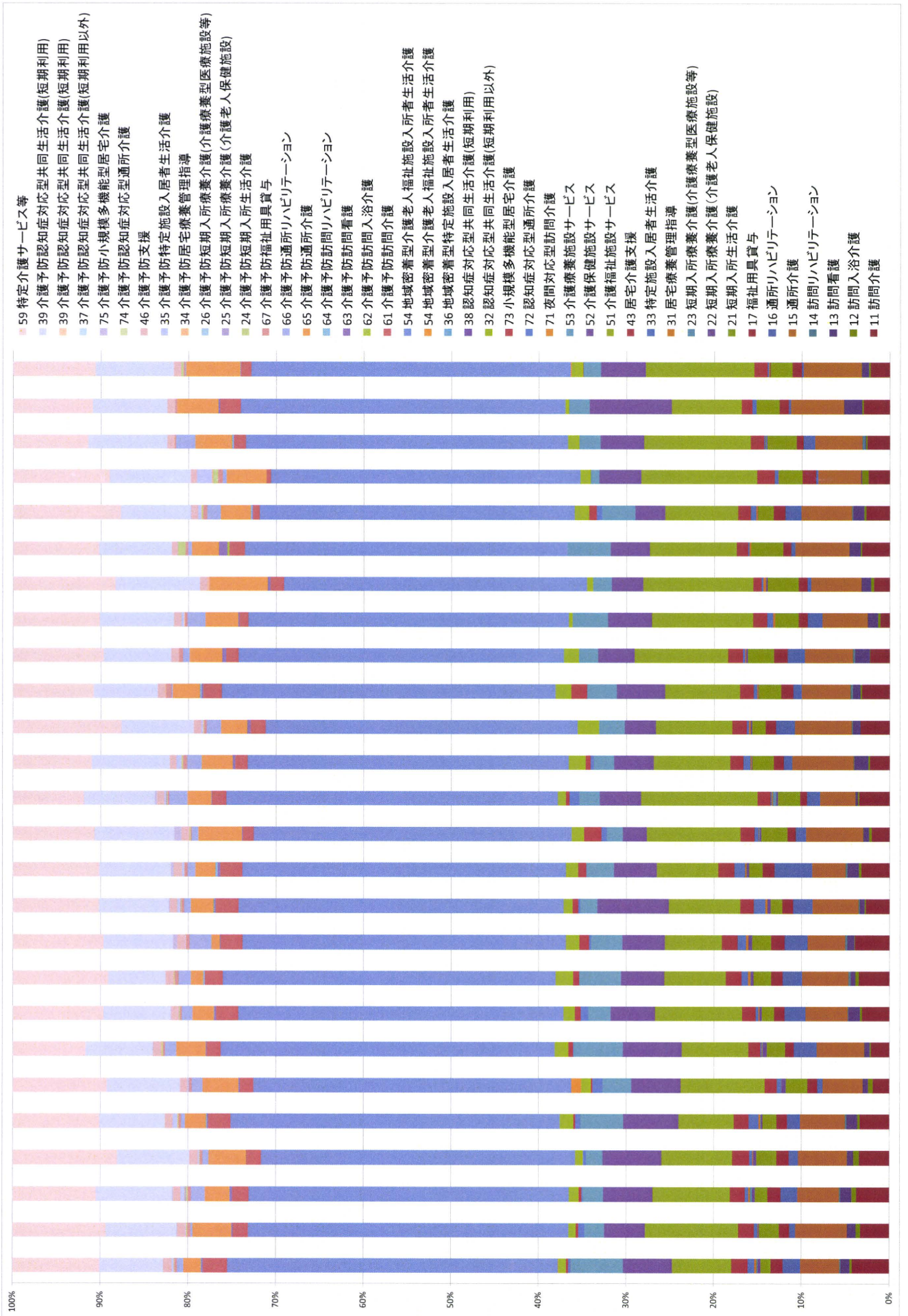


表15. 市町村別、介護サービス種類別報酬(金額) (単位:1円)

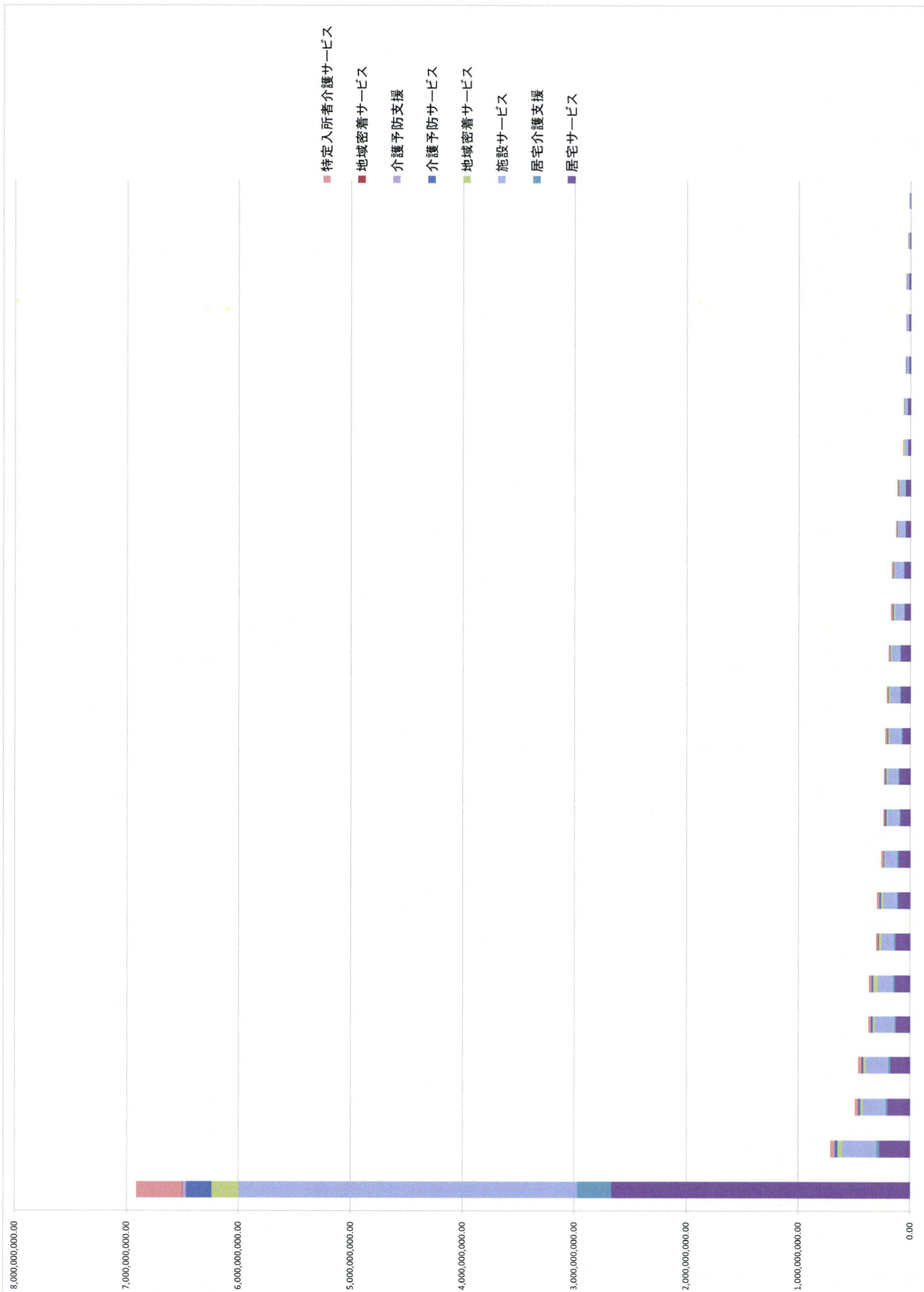


表16. 市町村別、介護サービス種類別報酬(PER) (単位:%)

